

— 告 白 —

KIT
キャンパス
レポート
文・杉村裕之



武田雄太(たけだ ゆうた)
金沢工業大学大学院工学研究科
電気電子工学専攻
博士前期課程一年
石川県立小松工業高等学校出身

第三者の目線で絶えず検証。 ワサビの人工栽培を軌道へ。

高価な理由でもあるが、KITの平間淳司研究室では、二〇一五年から植物工場でワサビの水耕栽培に挑戦してきた。

植物班の武田さんは、ワサビの葉から出る微弱な葉面電位と、光合成の余剰エネルギーであるクロロフィル蛍光をセンサーを使って同時に計測。集めた生体情報から生育状態を判断し、栽培環境を常

醬油を弾くほどのトロの脂にも負けず、ツンと鼻に抜ける強くてフレッシュな辛みでうまさを引き立てるワサビ。近年、世界的な日本食ブームでその味が認められ、人氣が急上昇している。

ただ、出荷まで二年がかかり、しかも一年を通して一定した冷涼な水が必要との条件がネックとなり、生産地は極めて限られる。それが

にベストに制御する研究に取り組んでいる。

「全国で誰も手がけていない独創性に引かれ、平間研究室に入りました。栽培する株数を二十から三百に増やし、半年で出荷をめざす実証実験が近く始まります」

足かけ九年、研究のバトンが先輩から後輩へとリレーされ、ようやくここまで辿り着いた。とはいえ、武田さんは生育を左右する温度や照明、養分などの過去のデータを鵜呑みにはしない。絶えず第三者の目線で数字を追ひ、少しでもおかしいと思ったら実験で検証するのが流儀である。功名を焦らない科学者の良心のようなものを感じるのだ。

工業高校の出身である。高校で電気関係の資格を取り、「卒業したら就職して稼ぐ」が当時の夢だった。それが進路担当の先生の勧めもあってKITに入學、数理工教育研究センターに通って苦手教科

の基礎学力も鍛えた。

「まさか大学院まで進むとは僕自身、想像もしませんでした。それだけ研究が面白く、夢中になれたということでしょうね」

来年春、地元と東京に本社のある空調設備の会社への入社が決まっている。巨大企業の歯車になるのではなく、やりがいが一番に選んだという。「東京や全国の支店を回り、多くの部門を経験して、将来は役員として活躍してほしい」。面接で社長が語った期待の熱い言葉が心に響いた。

「高校時代の同級生の多くは結婚して子どもまでいるのに、僕だけ置いていかれてしまった」

最後、屈託のない笑みがのぞいたが、お金では購えない人間陶冶の貴重な六年を過ごしたことを、きつと懐かしむ日が来るだろう。

金沢工業大学
石川県野々口市扇が丘七二一
電話番号(076)2481100